

国際理解・人権・平和

杉本雅子・鈴木義晴
渡辺武志・水谷成仁
山田孝・仲田恵子

【抄録】 高校2年生は「国際理解・人権・平和」の大テーマの下、各クラスが「沖縄戦」・「基地」・「歴史」・「産業」・「文化」・「沖縄から世界へ」の6テーマ、6班に分かれて研究を行った。研究の柱を11月中旬に行われる3泊4日の沖縄研究旅行におき、生徒たちは学習を、事前学習、研究旅行（フィールドワーク）、研究集録執筆、研究発表会、という流れで進めた。「沖縄」を中心に据えることで様々な方向からアプローチができ、それぞれのグループが主体的にテーマを深めていくことができた。

【キーワード】 国際理解・人権・平和・共同研究

1 年間スケジュール

高校2年生の総合人間科は、「国際理解・人権・平和」という大テーマで、11月に行く沖縄研究旅行を研究の中心とし、事前の沖縄に関する学習、事後のまとめ（研究集録作成と発表）という流れで進めている。「沖縄」を中心に据えることで、歴史・文化・現代社会の問題など、多様な方面に研究テーマを求めることができる。

また、高校1年生は個人研究で自分の興味関心にそってテーマを選び、自分のペースで研究を進めたが、高校2年生では、共同研究で、他の班員と話し合い、協力しながらテーマを決め、掘り下げていくことも課題となる。

教員は沖縄研究旅行に行くまでに、生徒が沖縄の現状や沖縄戦について知っておくべき事を学び、それをベースにして、研究テーマを決め、主体的に研究を進めるという姿勢に持っていくことに腐心した。

年間スケジュールの表を【資料1】として末尾に付す。

2 沖縄研究旅行行程

※ = 飛行機 — バス ～～ タクシー

11月15日（火）

中部国際空港 — 那覇空港 — 首里城（見学） — ひめゆりの塔平和祈念資料館（ビデオ鑑賞・見学） — 花野果村（トロピカルフルーツ試食） — 糸数壕（平和セレモニー） — ホテル（安里要江さんの講演）

11月16日（水）

ホテル — （バス内で、現地平和ガイドさんによる講義） — 嘉数高台（説明） — 韓国人慰霊の塔（説明）・平和祈念資料館（見学）・平和の礎 — 昼食 — 魂魄の塔（説明）・米須海岸（説明） — 国際通り散策 — ホテル（エ

イサー体験）

11月17日（木）

那覇ホテル～～終日フィールドワーク（大型タクシーでの班別行動）～～恩納村ホテル

11月18日（金）

ホテル — 座喜味城址（見学・比嘉さんによる講義） — 楚辺通信所（説明） — 安保の見える丘（見学） — 東南植物楽園（昼食・見学） — 沖縄ワールド（見学） — 那覇空港 — 中部国際空港

3 沖縄研究旅行のまとめ～生徒作文より～

高校2年生のメインの行事である沖縄研究旅行を終え、生徒たちは作文を書いた。その中から気がついた5つの点（1「過密だったスケジュール」、2「実物に触れて感じる事の大切さ」、3「聞く姿勢」、4「伝えたい気持ちの芽生え」、5「現代の沖縄の実相」）を、生徒の作文を紹介しながらまとめてみたい。

1. 「過密だったスケジュール」

●長いようで短かった3泊4日の旅が終わった。分刻みのスケジュールは少しも息苦しくなくて、むしろあの短い4日という期間で、あれだけの事ができて、良かったと思う。

●世間で言う修学旅行を、私達の学校では研究旅行と言います。しかも、名ばかりの研究ではありませんでした。3泊4日の旅行中、余す所無く平和について学び、考えさせられました。楽しかったけれど本当にハードでした。普通の授業には放課があるけど、それすら無かった。そういう感じです。

●基本的にスケジュールが詰められすぎかな、と思う。バスも広いとはいえないし。この旅行はこのままでいい

けど、もう少し遊べる旅行を、学年のみんなと一緒にいきたいかな。

●本当に研究しに、沖縄へ旅行に行ったという感じだった。もちろん楽しかったのだが、沖縄に着いた瞬間から最後まで平和学習が続いた。その内容もヘビーなものが多く、肉体的にきつかったことに加えて、精神的にもかなりしんどかった。戦争を学び、人の死を知り、ある意味では辛い思い出にもなった。

——何人かの生徒が述べているが、日程にゆとりがなかった。空港への集合時間が早朝（午前7時半）であったこと。また、初めての土地であり、日本とはいえ、生徒が生活している名古屋とは異なる文化・風土を持つ沖縄である。かつ、訪問地も戦争の被害を受け、多くの人が悲惨な体験をした、心に重く迫ってくる場所ばかりである。1つ1つの場所でゆっくり見学し、消化する時間が欲しかった。日が重なるにつれ、体調を崩す者や、疲労のため集中力の欠ける者も出た。しかし、豊富な内容を持つ日程であったからこそ、無事終えた後の満足感につながったともいえる。

2. 「実物に触れて感じることの大切さ」

●沖縄へ行くと、暖かくて、人も明るく、イメージ通りのこともありました。しかし、今回の旅行で印象に残った物を考えてみると、決して「明るい」なんて言えるものではないということがたくさんありました。実際に現地に行って見てきた沖縄戦は、本当にひどいものでした。これがよくわかったのは、今回の旅行のおかげだと思います。

●前もって調べておいた知識で、ある程度の覚悟を決めて沖縄に行ったが、実際見てみるとかなりショックだった。

——事前学習で自分たちなりのイメージを持つことができたが、実際にその場所に行き、人や物に触れた時、想像した以上のものを受け取っている。対象からじかに得るものを大切にしているのも、総合人間科の精神である。

3. 「聞く姿勢」

●安里さんやメリーさんのお話を聞いて、沖縄は京都や奈良と同じくらい歴史ある場所なのだと感じました。（中略）メリーさんのお話の中にあつた「地球家族」という精神を、本当に実現したいと思いました。

●一番驚いたのは、安里さんの講演だ。中盤から集中力も切れ始めたが、どこかエネルギーを感じる安里さんの姿に、目も耳も奪われてしまった。

——初日の安里さんの講演は、予定の時間を1時間以上延長した、熱を帯びたものだった。途中、頭を垂れて寝てしまった生徒もいたが、多くの生徒は熱心に、静かに安里さんのお話を受け取ろうとしていた。その様子を見

て、現地の平和ガイドさんは、「生徒が興味を示さず、平和学習が成り立たない学校が多いと聞いている。だが、名大附の生徒はどうして2時間以上、人の話を静かに、しかも学びながら聞くことができるのか。私は、みなさんの聞く姿勢を学びたい」とおっしゃった。生徒の平和学習への真摯な態度は、本校の沖縄研究旅行の伝統により、醸成されたものだと考える。長年にわたるノウハウの蓄積、教員間の共通の話題として沖縄について語る土壌がある。また、生徒達の間でも先輩から後輩へと沖縄のことは語り継がれている。学校全体で、沖縄という対象に関心を持っているがために、旅行に行く生徒も自分のことにひきつけて現地での話を聞くことができるのではないか。

4. 「伝えたい気持ちの芽生え」

●私達にできることは「伝える事」だと思います。戦争がいかに愚かで意味のないことか、日本中、世界中の人に伝える事です。私達人類にとっての幸せとは何なのか、全ての人と語り合えるようになれば、平和な世の中と言えるのではないかと思います。

●平和について初めてこんなに深く考えた。それが今回の沖縄研究旅行。（中略）今まで戦争は、過去の出来事として、自分には関係ないと思っていたが、それではただの人の苦しみ合いにしかすぎないということに気付いた。たしかに今さら過去の出来事だから恨んだって仕方がないが、今、私達にできることは、その事実を伝え、そして平和や人の命を大切にすること、そして戦争というものをこれからの世界の平和に生かしていくこと、それが過去の戦争から学ぶということだと思った。

●毎日家に帰り、飯を喰らい、外出しても必ず帰る家がある。これを維持していくことが平和を保つことなのではないかと思う。（中略）僕たちが守っていくべきものがそれだ。

●たくさんの人に支えられて3日目のFWをより良いものにすることができました。私はこの行為を無駄にしないように、みんなにしっかり伝えていきたいと思います。

●「ここ（米須海岸）はひめゆりの人たちが命を落とした所だと知らずに、サーファーの人などが泳いだりしているんですよ」と聞いたとき、知らないことは恐ろしいな、と感じると同時に、そんな風にならないために、正しい知識をつけ、戦争のことにも、きちんと目を向けたいといけなうと改めて思いました。

無神経で無関心であることは、平和へとつながる思考とはかけ離れているなど、この沖縄旅行で強く感じました。

●私達は今回、授業だけではとても学べなかった心打たれる戦争の本当の姿を知りました。それを通して、私達が今まで考えたことのなかったことに気付かされたよう

に、いま日常生活にただ流されながら生きている多くの若者にも語り手の話を聞いて、平和について考えてほしいと思いました。そのためにはやはり平和という名のボタンをしっかりと受け取り、次へ次へとつなげていかなければいけないのです。そしてその役割は、沖縄に住む若者だけでなく、研究旅行で多くを学んだ私達にもあるのだと確信しました。

——生徒達は、沖縄研究旅行を終え、伝えたいことを持った。それは、感動体験があったからだろう。それを言葉にし、文章にして表現する技術を、総合人間科だけでなく、普通教科の授業、読書指導、など、学校生活の様々な場面でつけていきたい。まずは言葉で表すこと、そして自分で自分の文章を客観的に読み、推敲する所まで高めていきたいものである。

5. 「現代の沖縄の実相」

——惜しむらくは、現代の沖縄が抱える基地問題についての話を聞くことができなかつたことだ。基地問題についての講演を依頼していた方が事情で来られなくなり、代理の方は戦争被害について語られたので、前に聞いたテーマと重なってしまった。沖縄の過去のことは十分に聞くことはできたが、現代のことを、データをもとに、現地で聞くことができたなら、沖縄をより多面的にとらえ、ニュースなどをより身近に、具体的に感じるようになるだろう。

4 研究集録執筆

沖縄研究旅行が終わると、グループごとにFW報告書を書く。例年、FW発表会の後、集録原稿執筆に入るのだが、今年は集録を持って発表を聞けるように、順序を入れ替えた。総合人間科の授業として執筆用に設けたのは2回(4時間)だった。生徒はFW直後なので、班で話し合い、執筆がはかどったようだ。原稿を年内に集め、製本に出し、1月中に完成した研究集録を生徒に配ることができた。

もう一つ、今年の試みとして、表紙を何人かの生徒の作品で飾ることをした。英語科の協力で、生徒一人ずつが英語の平和メッセージを考え、B6大の用紙にイラストとともに書いたものを提出した。その中からいくつかを選びコラージュして表紙とした。生徒の平和観がわかり、興味深い。

5 FW発表会

集録原稿執筆が終わると、発表会にむけての準備にとりかかった。今回は、集録をみながらの発表であることを予告したところ、「集録に書いてあるから」と、書いたものを読み上げるつもりで、準備に熱の入らない者が多かった。しかし、「集録を見てください」では、発表が盛り上がるはずはなく、聞く人の立場にたつて発表の準備

をした他班のありようを見て反省する結果となった。失敗から学ぶ経験も必要である。各クラスで1班につき10分程度の発表をし、投票で2班をクラス代表として選出した。

各クラスから選ばれた2つの班、計6班が学年全員の前で発表した。各班は、クラス発表で得た改善点を工夫したために、より聞き応えのある発表をすることができた。以下、発表した班を順に紹介する。「数字」は発表の骨子で、「一言」は聴衆に対する見どころの紹介である。

① A組 1班 テーマ「ガマが語る沖縄戦」

1. テーマ設定、事前学習 等
2. 劇

一言：聞き取りにくい部分が多くて内容がわかりにくいかもしれませんが、がんばります。

② C組 6班 テーマ「世界 ↔ 沖縄」

1. このテーマにした理由
2. 事前学習
3. フィールドワーク (①留学生センター②平和運動センター)
4. 考察

一言：まあ、「世界と沖縄」というテーマは難しいですよ!!

③ B組 2班 テーマ「平和が影を落とす町」

1. 基地の概要
2. キャンプフォスター内 KUBASAKI高校
3. アメリカ合衆国総領事館
4. 異文化間コミュニケーションセンター

一言：何気なく過ごしている毎日をもう一度見つめ直してくれたらいいなあ…と思います。

④ C組 4班 テーマ「沖縄の伝統音楽と現代音楽」

1. 事前学習
2. 琉球音階のしくみ
3. 琉球音階の伝承
4. 外来音楽から受けた影響
5. 沖縄発の音楽
6. 考察

一言：ハルちゃんに注目!

⑤ B組 5班 テーマ「キジムナーに会いたくて…」

1. 人形劇「キジムナーのひみつ」

一言：涙なしには見られない知られざるキジムナーのひみつを人形劇で!

⑥ A組 5班 テーマ「Food House Festival ～沖縄の生活を探る～」

1. ビデオ(プリント配布) 約10分

一言：ビデオに注目!!

6 1年を振り返って～生徒作文より～

●この1年は改めて「平和とは何か？」と考えさせられた。今までは、平和とは一日一日後悔しないで暮らすことと考えていたが、実際はこんなキレイ事ではないのだと実感してしまった。しかし今の自分には「正しい」答えが見つけれられるとは思えない。死ぬまでに見つかるといい。(中略) いろいろ学び、体験し、考えさせられた実りある1年でした。

●沖縄でのフィールドワークでは普段あまり真剣に考えることのない平和について本気で考える時間をもらえました。ちゃんとした答えは見つからないけど、学年全員が同じように平和について考えているのだと思うととても感動したし、それだけで何か前進したように思えました。

—多くの生徒が沖縄研究旅行を経験し、その後の活動に意欲的に取り組むようになった。現実を知ったこと、班員やクラスメイトとの連帯感が生まれたことが、平和学習に大いにプラスになっている。知識として事実を知ることが大切だが、平和学習を行う集団によい雰囲気醸成させることがより大事なかもしれない。

また、平和についてたくさん考えざるをえなかったようで、その結果考えが漠然としてきてしまった者もあるが、今回の学習は過程であり、これからもこういった問題を考え続けるきっかけとなってくれることを願っている。

●(この1年の取り組みで)成功した点は、研究を進めていく間中、自分の役割がずっと何かしらあったことだ。それは自分でやれる仕事をどんどん引き受けたからだ。今までは必要最低限のことしかやらなかったの、よくも悪くもない結果しか出なかった。しかし、今年の総人は、「とりあえずやるだけやったわー」、というすっきり感がある。失敗もたくさんしたが、それを次回改善すればいいという、具体的な目標もできた。来年の総人は、もっともっと充実した人生で最高のものになるようにがんばろうと思う。

—活動を通じて主体的であることに目覚めた生徒もいた。表面的にはわからなくても、文章を書いてもらうと情熱的で驚くことがたびたびあった。

●自分は多くの知識を得た点では満点だった。しかし、班のメンバーとの調和の点において、そして成果を他の人に伝える点では30点程度である。

—戦争の実相に迫ろうと意欲的に学習してきた生徒が、現時点での自分の限界を知っての述懐である。共同研究は仕事のはかどりという点から言えば効率は悪いが、他と協力して仕事することを学ぶ得難い機会であ

る。この生徒も自らコミュニケーションの大切さに気づくことができた。教員は、班での学習は手がかかることを心にとめて、腰を据えてねばり強く取り組む必要がある。

●私はグローバル化という言葉に、時々この地球の未来にあるくもりを感じさせられます。グローバル化、つまり国際化が進むということは、国際語である英語が一層広がるということになります。そうすると一見様々な国を知ることができるように思われますが、それは単に陽のあたっている国々の間のみであり、陰にかくれていた国々はさらに置いて行かれるのです。そうして先進国と途上国間の情報格差が大きくなっていってしまうのです。

こんなマイナス面にもしっかり目を向けて、力のある先進国の人々が途上国の人々に必要以上に気遣ってあげなければ、せつかくの輝かしいこの言葉も、取り返しよのない未来を引き起こす原因ともなりかねません。

—国際理解の分野にまで教員側から踏み込むことはしなかったが、生徒が自分で気づき、思いを深めている。この一年の活動を通じて、多角的なものの見方が身に付いてきたといえるのではないだろうか。

私たちが生きている世界の状況は、年々厳しい様相を呈していくように思われる。それは到底個人が短い時間に解決できるものではない。そこであらかじめしまわず、その時のいろいろな立場の人に思いを致すことができるとともに、現状を見つめ、人々と連帯して問題を一つでも解決し、現実をより良くしていく力を持つ人に育てていてもらいたい。高校2年生の総合人間科の学びが、生徒たちをそういう方向に導いてくれれば幸いである。

8 今後の課題 ～テーマ設定について～

研究班を作り、研究テーマを決めるとき、こちらから「戦争」・「基地」・「歴史」・「産業」・「文化」・「沖縄から世界へ」という6つの分野を示し、それぞれ一班ずつが担当するように指定した。すると「文化」に興味が集まり、「戦争」や「基地」はやり手がない。

「自分たちの興味にそったものを研究するのが総人なのに、枠を決められるなんてナンセンス」、「ずっと沖縄の食文化を調べようと思っていたのに」と生徒たちは不満をあらわにした。こちらは生徒たちを何とかなだめ、調整し、予定通り各クラス6つのテーマで研究に取り組みませた。

終わってみれば、それでよかった。生徒たちは自分たちに割り当てられた分野から研究するテーマを見つけ、深く掘り下げていった。当初人気がなかった「戦争」・「基地」グループが、調べるうちに自分たちの鉤脈がずいぶん深いことを知り、次第に意欲的になっていった。希望

通りに「文化」に決まった生徒たちの方がかえってフィールドワーク先が決められなかったり、テーマを深めていきにくいようだった。しかし、どの班も意欲を持って研究に取り組んでいた。

まとめの活動である発表会の時、6つの分野に分かれて研究してきたことの良さを味わうことになった。研究テーマが重なっていないので、新鮮な気持ちで他の班の発表に耳を傾けることができたのだ。また、それぞれが自分の班のテーマについてしっかりと意見を持ち、その分野の専門家として自信を持って発表することができた。自分の研究テーマについて深く知り、広く他班の発表を聞くことで、沖縄を多面的に知ることができた。

生徒から以下のような感想があった。

● (研究テーマは) 代々先輩方が取り上げてこられた使い古しのテーマなので研究内容が似たり寄ったりになってしまう。でも、今考えると、テーマにこだわるより、いかにテーマを掘り下げるか、を考えた方がよかったのかもしれない。

——生徒も最後には研究テーマがかたよっていないことをよしとしてくれた。

生徒のもともとの興味を重んじるか、こちらからテーマを与えるか、悩むところであるが、テーマはかたよらない方がいい。生徒の感想のように、テーマの掘り下げ方において有効なアドバイスをしていきたい。

【資料1】 年間スケジュール

学期	日時	(回) 内容
前期	4月5日(金) 5・6限	①高2総合人間科「国際理解・人権・平和」についてのオリエンテーション ②スクラップブックを用いた討論、発表 ③教員による沖縄についての講義(歴史・産業・基地・文化1・文化2・沖縄戦) / 研究旅行委員選出 ④沖縄プレ研究 ⑤「月桃の花」鑑賞会→沖縄研究テーマ決定の参考に ⑥沖縄研究テーマ決め(個人)と夏休み課題作り 個人研究をし、その結果をまとめて、「沖縄新聞」を作る ⑦FWグループ決め、グループ別研究テーマ決め ⑧FW行程の検討、FW先の交渉
	21日(木) 5・6限	
	5月12日(木) 5・6限	
	19日(木) 5・6限	
	6月9日(木) 5・6限	
	30日(木) 5・6限	
	夏休み	
	9月8日(木) 5・6限	
29日(木) 5・6限		
後期	10月13日(木) 5・6限	⑨FWの質問内容作成、FW先の交渉、依頼状の発送 ⑩FW質問状完成、グループ別沖縄研究発表準備 ⑪グループ別事前研究発表、研究旅行準備 ⑫沖縄研究旅行準備 沖縄研究旅行事前指導 沖縄研究旅行 ⑬作文返却、研究集録作成、お礼状作成 ⑭研究集録作成 ⑮研究集録作成、研究集録完成 ⑯沖縄研究旅行FW発表会準備 ⑰沖縄研究力FW発表会 ⑱高校1年生への発表 ⑲1年間を振り返って(作文)
	20日(水) 5・6限	
	27日(木) 5・6限	
	11月10日(木) 5・6限	
	14日(月) 3・4限	
	15日(火)～18日(金)	
	11月24日(木) 5・6限	
	12月8日(木) 5・6限	
	1月19日(木) 5・6限	
	1月26日(木) 5・6限	
	2月16日(木)	
	2月23日(木) 5・6限	
	3月9日(木) 5・6限	

平成17年度 高校第2学年 沖縄研究旅行 F.W.先一覧 (11月8日改訂版)

出発順	出発時間	クラス	班	生徒(◎は班長)	研究テーマ	訪問先①	訪問先②
1	8:00	A	2	◎ 福田 容子 青柳 博之 神谷 知樹 定行 真希 瀬古 淳祐 丹羽由香理 前田 憲吾	基地の中の人の生活	9:00~10:00 読谷村役場 読谷飛行場転用推進課 浜川秀樹 氏 中頭郡読谷村字座喜味2901番地 (098)982-9221	②11:00~ 沖縄県立嘉手納高等学校 ミヨシ先生 中頭郡嘉手納町字屋良806 (098)956-3336 ③12:30~15:00 嘉手納基地
2	8:00	A	1	◎ 奥村 雅彦 浅井 一真 斉藤 香織 新村 友美 永田 梨紗 舛田 美穂	ガマ	9:00~10:30 沖縄平和祈念資料館 糸満市摩文仁604 (098)997-2874	11:00~11:40 ひめゆり平和祈念資料館 糸満市字伊原671-1 (098)997-2100
3	8:00	B	2	◎ 川喜田京子 後藤 綾 才間 勝也 高木 英輔 竹田亜友美 松良 晴奈 宮崎 修一	米軍基地	9:30~13:30 普天間基地 キャンプフォスター	14:00~15:30 異文化間コミュニケーションセンター 宜野湾市長田4-13-8 (098)893-6467
4	8:00	C	2	◎ 梅村 光輝 浅野 リラ 鵜飼 哲也 金谷 晃平 鈴木ひとみ 吉田 陵以	いろいろな角度からみた基地	9:00~12:00 普天間基地 キャンプフォスター	15:00~16:00 ヘリ基地反対協議会 名護市大西5-5-6 (0980)53-6992
5	8:00	B	1	◎ 正光 亜実 石田 遥香 河内 智晴 榊山 潤 松井 鮎子 山岸 美郷	(仮)対馬丸について	9:00~12:00 対馬丸記念館 小野里 氏 那覇市若狭1-25-37 (098)941-3545	13:30~15:30 山内敏春 氏 自宅 島尻郡与那原町字与那原3584 (098)946-3091
6	8:05	C	3	◎ 佐藤 圭 筏井 春香 伊藤 達仁 今泉 知子 町田 純奈 松本 祐保	伝統芸能を通して見る歴史	9:00~10:00 沖縄県立博物館 那覇市首里大中町1丁目1番地 (098)884-2248	13:00~13:50 琉球ガラス村 糸満市福地169 (098)997-4784
7	8:05	A	3	◎ 内田 康弘 佐藤 裕佳 鈴木 英 松井 礼子 山田 真以 山本 主直	沖縄で探す食産業	9:45~11:00 JAおきなわ園芸部 松本 氏 浦添市伊奈武瀬1丁目10-8 (098)862-1511	12:45~14:00 ホットスパーク沖縄事務所 平木 氏 中頭郡中城村南上原960-9 (098)895-2314

8	8:05	A	5	◎	横山裕一朗 木戸友夏里 小泉 和子 田中 友紀 松浦 誠 溝口 志野	沖縄の人々の 生活を探る	10:00~12:00 越来青年会 宮城高志 氏 沖縄市越来2-18-1 (090)4991-4532	13:00~ ごーやー荘 野下秀広 氏 沖縄市胡家1-5-32 (098)929-2758
9	8:05	A	6	◎	熊崎 真敬 天野智沙都 新井 美緒 川上 礼華 中村 崇人 野村 勇氣 松井 透	沖縄の復興と 支援	10:00~11:00 JICA沖縄支部 黒石わかな 氏 浦添市前田1143-1 (098)876-6000	13:00~14:00 浦添市教育委員会文化部 阿波 氏 浦添市安波茶1丁目1-1 (098)876-1234
10	8:10	B	5	◎	上野 裕貴 小野友貴奈 片山 佑奈 加藤 尚子 菊田真由実 樋口満美子	沖縄県民とキ ジムナー 沖縄県民と物 価	9:30~11:00 沖縄県庁 企画調整室 山里 氏 那覇市泉崎1-2-2 (098)866-2026	12:00~13:00 琉球大学 赤嶺 先生 中頭郡西原町千原1 (098)895-2221
11	8:10	C	4	◎	村瀬 舞 柿崎 花枝 高橋 時音 中垣 遥 山田 和広 山田和佳奈	沖縄の伝統音 楽と現代音楽	9:30~11:00 沖縄県立芸術大学 金城厚 氏 那覇市首里当蔵町1-4 (098)882-5034	11:30~12:00 シーサーズ 那覇市牧志1-1-4 高良ビル1F (098)862-4091
12	8:10	C	5	◎	大河内綾華 太田 史也 加藤 美紀 小柴 友里 保母 里奈 柳川 実喜	沖縄の人の宗 教観と昔から 伝わる衣食住 の知恵	10:00~12:00 沖縄国際大学 稲福みき子 教授 宜野湾市宜野湾2-6-1 (098)893-3775	13:30~15:30 琉球村「おばあたち」代表 松原 氏 国頭郡恩納村山田1130 (098)965-1234
13	8:15	B	6	◎	土井麻理子 阿部 翔子 木股 ゆり 志治沙也加 長谷明日香 堀江 未裕 山口 夏季	沖縄の国際 化・国際交流	9:00~10:00 沖縄県観光商工部 交流推進課長 知念英信 氏 那覇市泉崎1-2-2 (098)866-2479	11:00~12:00 沖縄大学 国際コミュニケーション学科 桜井国俊 教授 那覇市字国場555番地 (098)832-1768
14	8:30	B	3	◎	市江 紀彦 大島 将斗 阪井 陸真 橋本 圭祐 真崎 大 山本 拓人	戦後沖縄の復 興	10:00~11:00 沖縄市国際大通り商店街振興組合 那覇市久茂池3-29-58 (098)863-2755	13:00~14:00 フォーモスト社 浦添市牧港5-5-6 (098)876-5103

15	8:30	C	1	◎	久田七菜子 安藤栄里子 神谷 芽里 小島 辰広 長坂 昌英 平川 祥子	沖縄戦	9:00~11:00 識名園管理事務所 具志 氏 那覇市字真地421-7 (098)855-5936	14:00~16:00 知花昌一 氏 (自宅) 中頭郡読谷村波平174 (098)958-5759
16	8:40	C	6	◎	望月 進 石川未奈子 北川 恭平 佐藤あゆみ 高木 彩香 丹羽 亮介 古川 舞	世界邊沖縄	9:30~11:00 平和運動センター 那覇市旭町112番地27 (098)866-3218	14:30~16:00 琉球大学 留学生センター 中頭郡西原町字千原1番地 (098)895-8111
17	9:00	A	4	◎	石見 大地 (加藤 未紗) 神脇 友鶴 永瀬 智貴 堂本 美帆 松山 健人 (水谷嘉那子)	沖縄の服と音楽	9:30~10:30 琉球かすり会館事業共同組合 島尻郡南風原町本部157 (098)889-1634	13:00~14:30 琉球村 国頭郡恩納村山田1130番地 (098)965-1234
18	9:00	B	4	◎	城山 伶佳 平野貴美代 山田 晃嗣 渡辺 佳宏 角屋 正憲 加藤 三奈	各地に進出する 沖縄伝統産業	11:30~13:30 仲尾次三味線 なんでも屋 仲尾次 氏 那覇市松尾2-10-1 (098)863-1010	15:30~17:00 恩納ガラス工房 岩田 氏 国頭郡恩納村字富着85 (098)965-3090